

ロシアのミサイルがシリア内の米作戦本部を破壊

——30名のイスラエル、米、英、トルコ、サウジ、カタールの情報局員が死亡

【訳者注】「よくやった、奴らを追い出せ。シリアはシリア人だけのものだ。アメリカやイギリス、トルコやカタールやイスラエルのものではない」——コメント欄で賛成トップの、この単純な憤りが国際的常識である。アメリカとその同盟国だけには、無法が許されているかのように思わせようとするメディアを、許すことはできない。

ロシアは、昨年9月末の、初めての単独テロリスト攻撃のときも、この方法を使った。海上に浮かべた比較的小型の船から発射しても、このミサイルは命中するらしく、アメリカがその性能に驚いたという記事を見た覚えがある。

Prof. Michel Chossudovsky

September 26, 2016, Global Research



アメリカとその同盟国が、アレッポ地方に、各国情報局員による野戦統一作戦本部を設けていた。9月20日にロシアのミサイル攻撃によって標的にされるまで、この“半ば秘密”の施設は、アメリカ、イギリス、イスラエル、トルコ、およびカタールの情報局員によって運営されていた。

Fars ニュースによれば、この情報施設はロシアによって攻撃されたもようで、それは ISIS - ダエシュ・テロリストを援護して、Deir Ezzor のシリア・アラブ軍 (SAA) を、米空軍が攻撃した直後に行われた。 <http://en.farsnews.com/newstext.aspx?nn=13950631000607>

「シリアの沿海に停泊したロシアの軍艦が、ある外国の軍事作戦本部を狙って破壊し、2 ダース以上のイスラエルや他の西側情報局員を殺した。

「ロシアの軍艦は、アレッポの西部 Dar Ezza、サマン山近辺にあった、外国の将官による統一作戦本部を、3 (インチ?) 口径ミサイルによって砲撃し、30 名のイスラエルと西側将官を殺した。

「この作戦本部は、アレッポの西部の、非常に高いサマン山の、古い洞窟の沢山ある場所に位置していた。これは山脈を奥深く入った場所である。」



テヘランのメディア Farsnews
によるミサイル
発射の写真

Fars の報道は、作戦本部が、大きくイスラエル人によって統制されていたような印象を与える。おそらくは決定権を持っていたのはアメリカで、この施設は、ワシントンのこの地域の同盟国によって統制されたもので、アメリカの軍と情報機関と密接につながり、かつ、その利益のためのものであったと推測される。

Fars の報道とアラビア語 Sputnik を除いて、この米主導の合同情報施設への、ロシアの攻撃は、見出しには出ていない。実は、全面的なニュース管制があったと見られる。Fars 報道の正確さは、まだ十分に確かめられていない。

重要なことは、アレッポ地方の“反乱軍”に押さえられていた領土内の、この作戦本部の要員が、シリア内部の ISIS - ダエシュやアルカーイダの主要な支援国家、すなわち、米、英（大きく空爆にかかわった）、それに4つの地域国家、トルコ、サウジアラビア、イスラエル、カタール、に占められていたことである。テロリストの募集や訓練、またその兵站や資金援助に関係していた、この4か国のそれぞれの分担については、十分に調査記録されている。

アレッポ地方のそれだけでなく、他の地方（“反乱軍”に支配されていた地域）の野戦作戦本部（すなわち戦闘情報センター）は、米、イスラエル、およびその同盟国の軍事司令や支配力と、恒久的につながっている。

思い出されるのは、2015年10月、オバマが、米特殊部隊を緊急派遣して、シリア内部のISIS - ダエシュに対する、反テロリズム地上作戦と言われるものに当たらせると発表したことである。これら米特殊部隊には、「50名以下の特殊作戦アドバイザーが含まれ、反政府軍とともに、北シリアのイスラム国と戦うが、直接戦闘には参加しない予定だ」（ワシントン・ポスト、Oct. 30, 2015）

彼らは戦闘には参加しない、彼らは“アドバイザー”の活動に従事する——つまり、反乱軍（テロリスト）の陣営の中で、野戦作戦本部の中で、ということである。

数か月前（2016年5月）、ワシントンは、別に250名の米特殊部隊を、シリアの地上に展開する予定であることを確認した。よりすぐりの情報部将官が、確かに野戦作戦本部に配属された。

この米特殊部隊の緊急派遣は、さまざまなテロ陣営の兵卒に加わった、何千もの新しく募集された「ジハーディスト傭兵」の流入に、時期が一致する。「何千ものテロリスト」が、2016年5月初めに、トルコ - シリア国境を越え、アレッポ地方の政府軍に対して配備されたと報道された。

The U.S. troops deployed to Syria will provide "some training, some advice and some assistance" to those fighting IS extremists, White House spokesman Josh Earnest told reporters.

"This is an intensification of a strategy that the president announced more than a year ago," Earnest said, adding that the "core" of the U.S. strategy in Iraq and Syria remained "building the capacity of local forces on the ground."

WATCH: US to Send Special Operations Forces to Syria

シリアに配備された米軍は、IS 過激派と戦っている者たちの「ある者には訓練、ある者にはアドバイス、ある者には援助」を与えるためだと、ホワイトハウス報道官ジョシュ・アーネストは記者団に話した。

「これは大統領が一年以上前に発表した、戦略の強化に当たるものだ」とアーネストは言い、イラクとシリアにおける米戦略の「核心」は、「地方の地上軍の能力強化」であることに変わりはないと付言した。——〈ボイス・オブ・アメリカ〉 <http://www.voanews.com/a/us-to-send-special-forces-to-syria-to-fight-islamic-state/3029684.html>

アレッポ地方の作戦本部は、地上行動や、ドローンの監視だけでなく、空爆の統制のためにも使われていた。Fars の報道によれば、ロシアに破壊された、米主導の合同作戦本部に配属されていた情報部要員は、アレッポとイドリブでの、米 - 同盟軍の援助するテロリストの統制にかかわっていた。どう見ても、ロシアに破壊された作戦本部は、米空軍の、SAA シリア軍に対するデール・エゾル攻撃の、計画と実行にもかかわっていたと思われる。これはジュネーブ停戦合意の直後に行われたものである。

シリアを本拠とする“作戦本部”はまた、米や同盟国の司令部とも、ISIS - ダエシュやアルカーイダをはじめとする、さまざまなテロ集団の中に潜んでいる地上特殊部隊（私的傭兵会社の雇う西側軍事要員を含めて）とも、つながっていた。

このアレッポ地方の作戦本部施設の存在と場所は、（最近まで）シリア政府によっても、ロシア軍によっても、知られていたが黙認されていたに違いない。そして最近までどんな行動も取られなかった。

ファーズ・ニュース社（Fars News Agency）の報道（まだ十分の確認されていない）によれば、モスクワが、アレッポ地方の（“半ば秘密”の）作戦本部への攻撃を決定したのは、ペンタゴンが、デール・エゾルで ISIS - ダエシュ・テロリストと戦っていたシリア政府軍に対する空爆を、命ずる決定をした直後だったようだ。

FNA の報ずる、米 - NATO 情報施設へのロシアによる攻撃は、メディアによっても取り上げられず、公的レベルで認められてもいない。

FNA 報道が正しいと仮定して、米主導の合同作戦本部へのロシアの攻撃は、きわめて重要な意味を含んでいる。それは前例となるだろうか？ ロシアはこれを、デール・エゾル攻撃への復讐として行ったのだろうか？

それはシリアに対する戦争の展開で、潜在的に危険な分岐点であり、軍事的エスカレーションの、より幅広いコンテキストにおいて見るべきものである。

しかし同時に、この作戦本部は、非宣言の情報施設である。ワシントンはそれを認めておらず、モスクワも攻撃事実を公認はしていない。ロシアのメディアは、この問題については黙しており、ワシントンも同様だ。どちらの側もこれを公にしたいくないようである。